

標記会合を以下の通り開催いたしました。

開催日時 2016年1月23日(土) 13:00 - 17:00

開催場所 こまつビジネス創造プラザ セミナールーム

<http://science-hills-komatsu.jp/access/>

〒923-0869 石川県小松市こまつ杜2番地 TEL: 0761-20-3445

参加者 12名 (募集サイト: <http://kokucheese.com/event/index/356640/>)

協議会側からの参加者 山田正樹、濱勝巳、高橋雅宏、飯泉純子、大槻繁

講演者 濱勝巳、青木利晃(北陸先端大)、山田正樹

現地協力 青木奈央

## 開催内容(プログラム)

13:00-13:10 ご挨拶 大槻繁(司会進行)

13:10-14:00 講師: 濱勝巳(協議会前会長)

### セミナー1: いまさらきけないアジャイルとウォーターフォールの違い

初心者が陥りやすい誤りや呪縛、実践時に整えておくべき制約条件、地方のエンジニアが心得ておくべきポイントなどを解説

14:00-14:50 講師: 北陸先端科学技術大学院大学 青木利晃准教授

### セミナー2: 形式手法のアジャイルでの役立て方

敷居が高いといわれている形式手法の産業応用の経験から、アジャイル(俊敏さ)と形式手法(厳密さ)との相補的な関係・実践適用のポイントなどについて解説

14:50-15:00 休憩

15:00-16:20 協議会メンバ

### 自由討論: はじめてのアジャイルの手ほどき

アジャイルプロセスに関する素朴な疑問、心構え、ちょっとしたノウハウ、支援を得たい場合の相談先などについて臨機応変に自由討論・指導。

16:20-17:00 講師: 山田正樹(知働化研究会コンセプトリーダー)

### セミナー3: 人働説から知働説へ

協議会のワーキンググループの一つである「知働化研究会」の活動から得られたソフトウェアエンジニアリングの潮流、将来像の解説

17:00 閉会

懇親会 酒房「うさぎ」にて交流(石川県小松市土居原町252) TEL: 0761-22-0117

## 資料公開

講演資料は、以下のWebページで公開

<http://www.exekt-lab.org/Home/ishikawa>

資料が出そろった段階で、Creative Commonsにて活用できるものを編集予定

## 開催後記

いまさらアジャイルを開催する候補地として、まず金沢が思い浮かんだのは、北陸先端科学技術大学院大学（以降 JAIST）の形式手法の研究グループとの交流があったことと、冬の石川県の海産物の魅力に惹かれたからです。形式手法は、ソフトウェアエンジニアリングの一つの研究領域で、厳密に仕様を記述したり、モデル化によって検証することを目指しています。

当初は金沢市内の開催を目論んでいましたが、北陸新幹線の開通に伴い、街に観光客が溢れ、物価も上昇しているため、場所を小松にしました。会場は、小松市が運営する施設「こまつビジネス創造プラザ」で、10月末頃から予約や企画の活動を始めました。JAISTの青木光晃准教授、奥様の青木奈央さんに、現地の手配や広報活動などにご尽力いただきました。

参加募集サイトは「こくちーず」を使用し、協議会やメーリングリストで開催案内やパンフレットを流したりしました。石川県産業創出支援機構や大学関係者からの展開を図りましたが、告知活動が年末年始にかかってしまったことや、北陸地方のソフトウェア人口が少ないのかもしれませんが、最終的には12名、約半数が協議会からの参加者でした。

開催前日の22日夕刻からは、JAISTの青木研究室におじゃまして、形式手法とアジャイルプロセスとの関係や、今後のソフトウェアエンジニアリングの取り組みについて討議しました。青木先生は、SPINという状態遷移モデルの分析ツールを活用した取り組みや、自動車搭載システム分野のモデル検証技術の研究をされていて、これ等はアジャイルプロセスを補強するものとして位置づけられるのではないかとのことでした。実際に自動車関連企業をはじめとした産業界での課題が多くある中で、大学の研究と企業の実践とをどのような仕組みで繋いでいくかという大きな問題も浮き彫りになりました。23日の会合での講演では、こういった問題意識のもとに、プロセスの並行動作の検証例などを取り混ぜて、お話をいただきました。

私の方からは、知働化研究会の活動のあゆみを簡単にご紹介するとともに、最近のデザイン論やシステムズエンジニアリングからのアプローチについて議論しました。形式手法は、とにかくソフトウェアによる実装領域の道具という位置づけになりがちですが、より広くソフトウェアの外側にある利用領域や実世界を含めたところで本領を発揮できるのではないかと期待しています。23日の会合では、山田正樹さん（知働化研究会コンセプトリーダー）に、その発祥の経緯から最近の話題に至る概況をお話していただきました。

23日の会合は、4つのセッションでアジャイルプロセスの啓蒙的なものから、知働化の話まで講演や討論を進めていきました。

セミナー1「いまさらきけないアジャイルとウォーターフォールの違い」では、濱勝巳さん（協議会前会長）からアジャイルの「考え方」についてお話をいただきました。「末期

限」であること、「不完全」であることを許容し、「とりあえず」を決めて進めていくことという本質的な教え (principle) が提示されました。この講演についても新たに文章を書き下ろしていただきました。

セミナー2「形式手法のアジャイルでの役立て方」では、青木先生から、形式手法の概況を後々検索して勉強できるようなキーワードとともに提示され、さらに、実践領域への適用のコツとして「電卓代わりのモデル検査ツール」といった位置づけで利用するとよいといったアドバイスがありました。

自由討論「はじめてのアジャイルの手ほどき」では、参加者の自己紹介に続き、セミナー1や2を受けた形で自由な討論・議論を進めていきました。アジャイルの実践指導を手がけている三井伸行さんも参加されたので、トヨタの優れたマネジメントやモチベーションの問題などのお話もありました。また、建築領域からの参加もあり、発注・調達の問題についても議論しました。

セミナー3「人働説から知働説へ」では、当初、大槻がお話するつもりもありましたが、山田正樹さんが参加していただける運びとなったこともあり、急遽、講演をお願いしました。このあたりの詳細については、近々に発行される知働化研究会誌 Volume 2 の『知働化の最前線』という記事が掲載される予定ですし、今回の講演内容を新たに文章として書き下ろしていただきました。また、補足資料としてのスライドを作成しておきました。

会合全体としては、12名と少なめとは言え、議論するにはちょうどよい人数でしたし、東京からの参加者の間の非日常（都会から離れての切り離された空間）でのコミュニケーションの場としても価値があったと思われます。特に、今回は青木先生に講演をお願いしたこともあり、形式手法についても研究・技術動向を把握することができましたし、アジャイルプロセスでの相互補強的な関係も再認識することができました。

形式手法という理論領域と、現場の実践領域とを繋ぐ問題については、これ等の関係ごとプロセスに組み込むことや社会的な仕組みとして構築していくことだと考えられます。大学と産業界、都市と地方、挑戦的な研究開発と製品提供の現場、アーキテクトとプログラマとの関係など、役割分担や分野横断的な協調活動をどのように構築していくかという問題設定です。こういった「全体」について時空を超えて見極め、仕組みをデザインしていくことが、要請されているように思えました。

アジャイルプロセス協議会（知働化研究会）では、今後、上記のような新たな社会的な仕組みの構築を含めて、本質的な方向性を示し、活動していきたいと考えています。

最後になりますが、開催にあたりご協力・ご支援いただいた方々に改めて感謝の意を表して、「いまさらアジャイル in 石川」イベントの報告とさせていただきます。

